



フォルクスワーゲン グループ ジャパン プロダクト戦略を発表

- **フォルクスワーゲンの新安全コンセプト「Volkswagen オールイン・セーフティ」の訴求**
- **パワートレインの新方針**
- **ライフスタイルに合わせたモデルバリエーションの拡充**

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社(代表取締役:スヴェン シュタイン、本社:愛知県豊橋市、略称:VGJ)は、今後のプロダクト戦略において、「フォルクスワーゲンの安全に対する考え方の訴求」「パワートレインの新方針」「ライフスタイルに合わせたモデルバリエーションの拡充」という3つのビジネス展開を軸にして活動を行ってまいります。

◇新安全コンセプト「Volkswagen オールイン・セーフティ」の訴求

フォルクスワーゲンは長年に亘り、お客様に安心してお乗りいただけるよう、高い安全性を第一に掲げたクルマ造りを行うとともに、他社に先んじた先進安全技術の開発を進めてきました。これまでVGJでは、こうした取り組みや技術・装備について、車種ごとに展開してきましたが、今後は「Volkswagen オールイン・セーフティ」というコンセプトの下、こうしたフォルクスワーゲンの安全思想や先進安全技術などについて、より分かりやすくお客様にお伝えする活動を行ってまいります。

「Volkswagen オールイン・セーフティ」とは、①予防安全 ②事故発生時の被害低減 ③事故後の二次被害防止までの3つの事象すべてに対応した、フォルクスワーゲンの先進安全技術による包括的な安全対策により、運転者、同乗者、さらには周囲の車や歩行者を事故被害から保護するための総合安全コンセプトです。

◇「パワートレインの新方針」

VGJの“e-mobility”戦略については、これまで、2014年10月に電気自動車(以下:EV)の「e-up!(イー・アップ!)」と「e-Golf(イー・ゴルフ)」の2モデルの導入を発表したものの、それらの急速充電システムが日本国内に多数ある急速充電器のすべてに対応していないことが判明し、デリバリーを延期していました。一方、フォルクスワーゲン初のプラグインハイブリッド(以下:PHEV)である「Golf(ゴルフ) GTE」は、“e-mobility”商品の第一弾として昨年秋に販売を開始しました。

今後は、フォルクスワーゲン AG の新たな“e-mobility”戦略の発表を踏まえ、VGJではフォルクスワーゲンの“e-mobility”が、単なるエコカーとしてのクルマではなく、“エコ+Fun to drive”の双方でお客様のご要望にお応えしていくことを目指し、“e-mobility”のモデルラインアップを見直したうえで、当面はお客様の利用環境を選ばない PHEV を主軸に据えた展開を進めていきます。今年、昨年導入した「Golf GTE」に続いて、「Passat(パサート) GTE」を導入します。一方、EVについては、「e-up!」の導入を見送り、e-Golfについては、より長い航続距離を実現する新型にて導入を検討します。

パワートレインの拡充に関しては、ガソリンエンジンの TSI が引き続きメインとなりますが、PHEV の拡充に加え、ディーゼルエンジンの導入も引き続き検討しています。(導入時期は未定)

◇「ライフスタイルに合わせたモビリティの提供」

2016年は、本日発表した新型「ゴルフ トゥーラン」、コンパクト SUV の新型「ティグアン」を中心に、PHEV の「Passat GTE」や、運転の楽しさを追求したスペシャルモデルなどを積極的に導入し、お客様のライフスタイルにあった、魅力的な商品展開を行っていく予定です。